

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標4_都市基盤・防災・防犯・消防】

施策 4-8_運輸交通体系の整備

基本計画		事業番号	細事業名称
4-08-01	公共交通の維持・整備	00159_02	新造船建造取得事業
4-08-01	公共交通の維持・整備	02295_01	デマンドタクシー運行事業
4-08-01	公共交通の維持・整備	07024_03	生活路線維持運行対策事業補助金
4-08-01	公共交通の維持・整備	07128_01	別子山地域バス運行事業

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	00159_02		
事業名(行目名称)		渡海船整備事業	細事業名	新造船建造取得事業			
総合計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防	施策	運輸交通体系の整備			
	基本計画	公共交通の維持・整備	担当課	地域交通課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	渡海船整備事業利用者数		数値	88955		
	手段(どうやって)	平成21年に独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構との共有建造による新船建造工事請負契約を締結。平成23年11月から新造船「おおしま7」が就航した。同機構との旅客船共有契約により、共有開始から11年間の船舶使用料の支払いを行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	国土交通省運輸局の外郭団体である独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構との共有船制度を利用することで、有利な資金計画・高度な建造技術の支援を受けることができ、船体設計の専門家のいない自治体単独での船舶建造よりもより安全で実用性の高い船舶の就航が可能となり、新船建造による配船計画に基づく安心安全を配慮した運航事業を行う。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		31,107	54,007	54,007	54,006	○使用料及び賃借料 17,846千円 ○公有財産購入費 36,161千円	
財源	県・国支出金	0	17,846	17,846	54,006		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	31,107	36,161	36,161	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
1日渡海船運航便数		目標値	15	15	15	15	15
		実績	15	15	15	15	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
特になし。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
平成23年から就航した「おおしま7」の使用料として、平成23年度～令和4年度まで(11年間)、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構に支払うもので、令和4年度をもって完了する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	D:事業の統合・休廃止を検討				
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構に支払うもので、令和4年度をもって完了した。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	02295_01		
事業名(行目名称)		デマンドタクシー運行事業費	細事業名	デマンドタクシー運行事業			
総合計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防	施策	運輸交通体系の整備			
	基本計画	公共交通の維持・整備	担当課	地域交通課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	バス交通空白地域、高齢者等交通弱者		数値	55000		
	手段(どうやって)	バス交通空白地域へ導入する新たな公共交通の形態をデマンド型乗り合いタクシーを第一候補として、平成23年1月から平成26年9月までの試験運行を経て、平成26年10月から本格運行を実施。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	現在、バス交通の利用できる地域は人口ベースで50%以下と低い割合となっている。また、高齢化が進行し、自動車利用のできない若しくはしない人が増加し、その人たちの移動手段の確保が重要な課題となってくることが明らかであり、市内を移動する公共交通の整備の重要性は高い。このことから、バス交通空白地域へ新たな公共交通を随時導入し、高齢社会に対応し、高齢者や障害者などの交通弱者のための市内公共交通体系を確保する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		20,238	18,311	18,311	19,941	○負担金補助及び交付金 18,311千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	20,238	18,311	18,311	19,941		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
乗車人数(人)		目標値	20000	20000	20000	20000	23000
		実績	17135	16504	8163	15880	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
川西地区でのデマンドタクシー運行開始に向けて早急に必要手続きを進める。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
バス交通不便地域の補完的交通手段として導入されたデマンドタクシーの需要は高く、今後も高齢化の進展により交通弱者が増加すると考えられるため、川西地区においてもデマンドタクシーの運行を開始し、さらなる公共交通空白地域の解消ならびに交通弱者の移動手段の確保に努める。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	B:事業の進め方の改善検討				
川東・上部地区については、高齢者等交通弱者の買物や通院利用で定着している。 川西地区においても本年度デマンドタクシーを導入したが、利用者数を増やす必要がある。乗降地点の拡大や広報の仕方など検討を行いたい。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	07024_03		
事業名(行目名称)		生活路線維持運行対策費	細事業名	生活路線維持運行対策事業補助金			
総合計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防	施策	運輸交通体系の整備			
	基本計画	公共交通の維持・整備	担当課	地域交通課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	お年寄りや子供等の交通弱者など(未成年、60歳以上人口)		数値	66685		
	手段(どうやって)	利用者の減少等により、路線維持が困難となっている路線を維持するために、バス事業者に対して運行費の一部を補助する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	廃止、縮小の傾向にあるバス路線を維持し、交通弱者の足を確保する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 58,647千円	
経費		86,226	58,647	95,000	93,800		
財源	県・国支出金	16,065	14,549	15,885	15,885		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	70,161	44,098	79,115	77,915		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
路線系統維持率(%)		目標値	100	100	100	100	100
		実績	100	100	100	100	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや低い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	手段を改善する				
新型コロナウイルス感染症の拡大の影響によりバス利用者が大幅に減少したため、令和2年度より補助金額の増加が続いている。バス事業者には収支の改善を求めていく。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
高齢者や障がい者などのいわゆる交通弱者の交通手段を確保するためには生活路線バスの維持が必要であり、あわせて利用者の安全性・利便性向上のためバリアフリー車両の導入を推進する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)		B: 事業の進め方の改善検討			
長引く新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により経営環境が悪化したバス事業者を支援することにより、バス路線を維持することができた。しかし、持続可能な公共交通網維持のため、事業者に対し住民ニーズに合致したバス路線の見直しや利便性向上の取組を求め、収支の改善を目指したい。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	07128_01		
事業名(行目名称)		別子山地域バス運行費	細事業名	別子山地域バス運行事業			
総合計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防	施策	運輸交通体系の整備			
	基本計画	公共交通の維持・整備	担当課	別子山支所			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民(地域バス利用者)		数値	120,351人		
	手段(どうやって)	市民・地域住民が利用しやすい地域バスとなるよう利用者の要望を把握するなどして、運行時刻の見直しなど利用効率の改善に努めた。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市街地と別子山地域との交流を活性化し、地域住民の利便性向上、別子山地域への定住促進を図ることにより、地域の振興と福祉の向上を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		21,033	21,473	21,473	20,250	○報償費 50千円 ○需用費 4,775千円 ○役務費 325千円 ○委託料 16,147千円 ○使用料及び賃借料 105千円 ○公課費 71千円 計 21,473千円	
財源	県・国支出金	4,514	4,514	4,514	4,400		
	地方債	10,100	10,100	10,100	10,100		
	その他	6,419	6,859	6,859	5,750		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
年間利用者数(人)		目標値	6000	6000	3000	6000	6000
		実績	4660	4398	2086	4053	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>マイクロバスが故障や自損事故による修繕が多く、特に2台のうち1台が購入(H28.3)7年目でエンジンの故障により使用不可となったため、来年度に1台購入の予定です。運行上は、別子山の福祉バス(H16購入)や管財課の公用車を借用して運行したため、支障はありませんでした。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>別子山地域バスは、別子山地域と新居浜市街地とを結ぶ唯一の公共交通機関であり、別子山地域住民の新居浜市街地への通勤、通学、通院、買い物や別子中学校生徒の帰省にはなくてはならないものであることから、翌年度以降も継続する。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>年間を通じてマイクロバスについては故障による修繕が多く、所有するマイクロバス2台の内の1台がエンジン故障により一時抹消登録となったが、代車を配車調整し運行への支障なく事業を実施できました。利用者も前年並みの4千人を超える利用があり、別子山地域と新居浜市街地を結ぶ唯一の公共交通機関としての役割を果たしています。</p>							